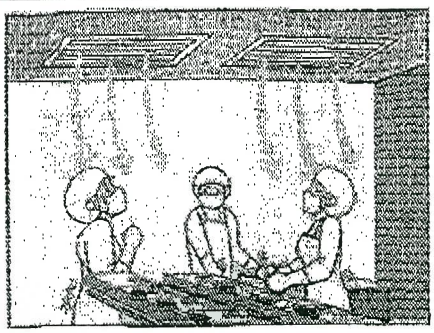
(第2393号)　(第三種郵便物認可)

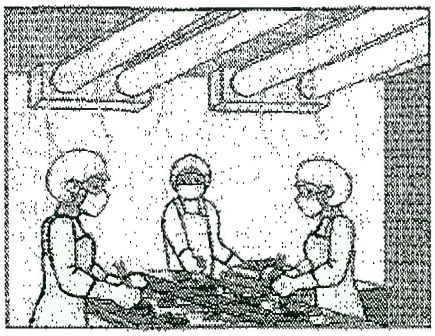
青葉化成

「電石」サニフィルター販売伸長

低コストで使い勝手の良さ評価



従来の強制対流方式



サニフィルター導入後

青葉化成（仙台市、石田一社長）は、不織布製高性能空調フィルター、「電石（でんしゃく）サニフィルター」の販売にさらに注力していく。最近ではコンタミへの意識が高まってきている。低コストで設置でき、使い勝手がよく高い効果を発揮する電石サニフィルターに注目が集まっているようだ。同製品は強力な電界をもつ超極細繊維を使用した空調フィルターで、従来のフィルターに比べて工場の温度ムラを解消し、空気中の雑菌や微生物の除去をより効率的にできる。フィルターはさまざまな形にすることができるため、場所を選ばないことも魅力だ。

同製品は、東レの登録商標である電石不織布トレミクロンを使用し、半恒久的に電極を持つ繊維が、ミクロのホコリやカビまでしっかり捕集する。一般的にフィルターは、吹き出し口に取り付けることから、工場の端まで届かせるためには風を強くせざるを得ず、温度のムラや吹き出し口から吹き出す風により微生物などの異物が巻き上げられるという問題があった。それに対し同製品は、工場の天井にソックタイプのフィルターを通し工場全体に風を吹き流すことができ、より衛生的な環境を作ることができる。吹き出し口に設置するタイプと違い微風ですむため、食品の表面の乾燥防止などの鮮度・品質上の問題も解決することもできる。またフィルターとなる不織布は半縫いで各工場の形に合わせて様々な形にでき、工場にまんべんなく風を通すことも可能で、温度ムラを作らずに工場内の温度を均一に保つことができるという特徴がある。布と違い使い捨てができるタイプで、コストを抑え衛生的な状態を保つこともできるといった点も評価されている。今後も同製品が注目を集めそうだ。

国内は冷静な対応を

台湾可塑剤混入事件の余波懸念

可塑剤「フタル酸エステル」の一種「フタル酸ジー2－エチルヘキシル（DEHP）」が5月下旬、台湾でダイエット食品や飲料から検出された事件に関し、6月上旬までにDEHPが混入された食品が台湾国内だけで9338種類に上ることが台湾当局の調べで分かった。現在のところ日本では大きな問題にはなっていない。

この事件は、台湾の香料会社が中国語で「起雲剤」と呼ばれるクラウディ剤の一種に、原材料費を安く上げるために乳化剤の代わりにDEHPを意図的に混入したもので、台湾の行政院は当該のメーカーを摘発するとともに乳化剤を使用する食品の全面一時販売停止を決め、スポーツドリンク、果汁、茶飲料、シロップ類、カプセル・錠剤などの5種類の食品について、フタル酸エステル類など6種類の可塑剤が含まれていないことの証明書の提出を求めたほか、台湾食品が輸出されている各国への説明に追われた。引き続き、可塑剤が混入された可能性のある食品の追跡調査などを急いでいる。

DEHPはポリ塩化ビニルを製造する際に使用される非常にポピュラーな可塑剤で、ポリ容器、ボトル、医療用バッグなど広範に使用されてきたが、内分泌攪乱の可能性が指摘されていることから、近年では日本を含め食品包装や医療用器具、おもちゃなどへの使用を禁止している国が多い。通常の食品からも、流通時に包材や機器などから溶出した極々わずかなDEHPが検出されることはあるが、国際的な規制値をはるかに下回るレベルであり、IOFIも「現在の進んだ分析技術では極少量の数字でも検出されるし、ゼロにはなり得ない」というコメントを出し、このレベルでの検出は何ら問題ないとしている。今回の事件は意図的に大量のDEHPを混入した犯罪事件であり、通常の混入汚染事件とは分けて考える必要がある。国内の食品業界からも、過剰反応による風評被害やパニックの拡大を懸念する声が上がっており、冷静な状況判断と対応が求められている。

新複合甘味料 粉末・顆粒 フジトーSS
天然ステビア甘味料 粉末・顆粒 ステビアトーA（エース）
純グリチルリチン ステビオサイド甘味料 粉末・顆粒 ステビアトー20
TRADE MARK 富士食品株式会社
東京都世田谷区上馬2-1-15 TEL03-3709-7365(代)

の危害会議にオブザーバー関係者の技術向上と情報交換の場として企画。詳細は以下の通り。

日時・7月22日(金)、10時30分～17時

会場・東京家政大学板橋キャンパス 120周年記念館（JR埼京線十条駅下車）

プログラム・①「オフフレーバー研究会の発足と研究会のご案内」佐藤吉朗（同会会長）②「ビール工場における異臭対策の検討と官能評価」鵜川彰（アサヒビール）③「食品の異臭苦情について・日本生協連に寄せられる異臭苦情の状況と取り組み」氏田勝三（日本

準（一般食品2・5mg/kg、乳児用食品1・0mg/kg）以下のメラミンを回収率良く検出できる。

本品を用いた手法はアセトニトリルをバッファーとし、遠心分離など前処理を行った試料を毒物ガラス試験管に入れ、メラミン抽出用クリーンアップ・カラムをガラス試験管にゆっくり挿入、同相の上に出てきた通過液を蒸発乾固し、再溶解・振とうしてHP-LCに注入する。幼児食、動物飼料、チョコレートなどで妥当性確認が行われ、平均回収率76%～92%の結果を得ている。価格は1万8000円。